

江東区教育委員会
深川江戸資料館

合同企画展



英泉画 東都永代橋の景

下町文化

第 201 号

平成10年12月15日

発行

江東区教育委員会

生涯学習部生涯学習課

水彩都市江東の 歴史とくらし

—河川にみる流通・産業・文化—

例年、10月の文化財保護強調月間で開催していた「江東区の歴史と生活展」は、今年度より新たに教育委員会・深川江戸資料館との合同企画展という形で、1月15日よりスタートします。第1回のテーマは、江東区とは切っても切れない関係にある河川をとりあげ、河川の開削から埋立てまでの歴史の流れを軸に、流通・交通、生産・生業、文化などについてパネルや民俗資料によって解説します。ご期待下さい。

それは今回の企画展の内容について、簡単にご紹介します。

I 土地の成り立ちと川の開削

江東区は大部分が江戸時代以降の埋立地といわれています。そのため江東区の初期の歴史は、広大な低湿地を開発・改良していくことにあつたともいえます。中世後期から近世・

近代を経て、現在に至るまでの海岸線の推移や水路の変遷などを絵図（地図）から見えていきます。

II 物資の流通と河岸の形態

河川交通は陸路を行くよりもはるかに早く目的地に到着することができ、そのため、物資の輸送だけでなく、

全国的規模での物流と、江戸の後背地としての関東商品生産地帯としての江東区との結びつき。また、深川が江戸市場の一翼を担っていたことを、干鰯・木場といった主要業種の問屋を取り上げ、河川と河岸地・問屋の集積などから明らかにしていきます。

III 行き交う人々

芭蕉記念館新展示面

4面

人々も多く船を利用することとなります。將軍から庶民に至るまでの足となった船のあれこれについて解説します。

IV 川と生業

本場で働く川並・河岸の物揚げ場と倉庫業・船大工など、幾筋もの河川を有することで生まれた、江東区の伝統的な生業を取り上げ、かつて使用されていた道具などの展示品を通して解説します。

V 文化の出入口

河川はまた文化の伝播役も担ってきました。江東方面の名所との接点を踏まえ、河川にまつわる遊びや信仰、伝説などについて解説します。

VI 都市化と消えゆく河川

鉄道・トラックの出現による船運の終焉、都市化に伴う水質汚濁など、近世から脈々と生きつづけてきた河川の衰退から、親水公園や水上バスなどによる再生までを、昔の写真などを交えて概観します。

会場 深川江戸資料館 地階レクホール

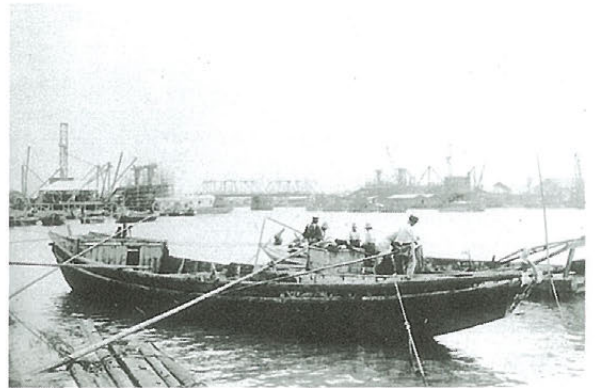
ル 江東区白河1-3-28

会期 平成11年1月15日(祝)~24

日(日)

時間 午前9時30分~午後5時

入場無料 但し、江戸資料館の常設



展示を見学する場合は別途入場料がかかります。

講演会

1月23日(土)

午後2時~4時

会場

深川江戸資料館2階小劇場

講師

立正大学教授・東京学芸大学
名誉教授 竹内 誠先生

演題

「水の都・深川」

定員

240人(先着順) 無料

申込

生涯学習課文化財係

☎(3647) 9111

内線 3361~3

深川江戸資料館

☎(3630) 8625

第三回「江東ふるさと歴史研究」

論文募集

「江東ふるさと歴史研究」は、区民自身によるふるさと江東区の歴史と文化の調査・研究活動、歴史的環境の保全と文化財愛護活動に関する研究活動を奨励し、地域文化の振興に寄与し、本区の将来像の「江東・伝統と未来を結ぶ下町」の実現に向けて設けられたものです。個人又はグループによる地道な調査や研究の成果を論文にまとめ、是非ご応募ください。

入選論文は「江東ふるさと歴史研究」論文集に掲載し、また「論文発表会」を平成11年度江東区文化財保護強調月間の行事として開催します。

《第二回応募要領》

論文要領 各時代を問わず江東区の歴史、文化に関する調査・研究、歴史的環境の保全と文化財愛護活動に関する調査・研究。ただし、未発表のものに限りま。

原稿要領 400字詰原稿用紙20~40枚。

原稿は必ずタテ書きで400字詰用紙を使用し、別紙に氏名、住所、電話番号、生年月日(グループの場合には、グループ名と代表者の氏名、住所、電話番号、生年月日、グループの活動略歴)を明記して、右上で綴じてください。写真、図版資料等は、オリジナルなものを原則として3点程度までとし、原稿枚数に含みます。

また、参考文献、引用文献の出典は明記してください。なお、応募原稿及び写真等の添付資料は返却いたしませんので、ご注意ください。

応募資格 問いません。

選考要領 入選論文5点以内。佳作論文若干点。

論文の選考は、「江東ふるさと歴史研究」選考委員会で行います。

締切日 平成11年5月末日

申込・問合せ

〒135 8383 江東区東陽4-11-28

生涯学習課文化財係

「江東ふるさと歴史研究」担当



99年新春

民俗芸能の集い

区内に伝わる民俗芸能を公開する「新春民俗芸能の集い」も今回で12回目を迎えます。



江戸時代以来、庶民の生活の中から生まれ、受け継がれてきた芸能。現在では保存会・睦会が中心となって「わざ」を受け継ぎ、江戸時代の粋を今に伝えています。地域を知るためにも、是非一瞥になってみてください。

日時 1月17日(日)午後1時～4時
会場 深川江戸資料館2階小劇場
(白河1-3-28)

出演団体 江東区民俗芸能保存連盟
東京木場角乗保存会
深川力持睦会
木場木遣保存会
砂村囃子睦会
富岡八幡の手古舞保存会
問合先 生涯学習課文化財係

3647-9111
3361-33

深川 七福神めぐり

江東区レクリエーション協会、深川・亀戸観光協会の共済で、恒例の初春七福神めぐりを開催します。

第28回 深川七福神めぐり

期日 1月3日(日)

午前8時30分集合・9時出発

集合場所 富岡八幡宮 本殿前

第18回 亀戸七福神めぐり

期日 1月2日(土)

午前8時30分集合・9時出発

集合場所 亀戸天神社 本殿前

費用 両コースとも一人千円を当日持参

定員 各100人

申込 往復ハガキにて先着順

締切 12月20日

申込・問合

136 0072 江東区大島4-1-3-838

高橋国男 3637 5154

芭蕉記念館から

新春ジュニア俳句教室

日時 1月9日(土) 午前9時30分より

11時30分まで(集合9時20分)

会場 2階研修室

内容 俳句をつくってみよう

対象 区内在住の小学生30人(先着順)

費用 無料(筆記用具持参)

締切 開催日の前日

申込 窓口または電話で

芭蕉記念館 江東区常盤1-6-3

3631 1448

展示室休室のお知らせ

芭蕉記念館は、12月21日(月)と22日(火)の2日間 展示替えのため展示室と図書室が休室となります。

新展示は12月23日(水)から公開致します。

伝統の技 実演公開

毎月第一・第三日曜日に工匠老番館(森下文化センター内)で行っています職人さんの今後の実演日程は次のとおりです。

12月20日 簾製作 豊田 勇

1月17日 石工 新川 昇

*時間はいずれも午後1時～3時

郷土資料出版委員会会長

辻 康信先生逝く

江東区郷土資料出版委員会会長で元東陽小学校校長の辻康信先生は、去る10月20日に肺癌のため亡くなりました。78歳でした。



辻先生は、文化センターなどの講座の講師として活躍され、先生のユーモラスな話術にはファンの方も多かったことと思います。この他にも、教育委員会主催の史跡めぐりや「江東ふるさと歴史研究」の選考委員、本紙「江東ゆかりの人物」執筆など、区の文化事業の発展のために尽力されました。ここに心より感謝いたしますとともに、慎んでご冥福をお祈り申し上げます。

旧大石家住宅から

旧大石家の正月飾り

旧大石家住宅

宅では、新年を迎えるために正月飾りを飾りつけます。

戸口の前には門松と輪飾りを供えます。

期間は次の通りです。是非一瞥になってください。

期日 12月26日(土)～1月11日(月)

ただし12月27日～1月4日は閉館となります。

入場 無料

問合 生涯学習課文化財係



書の中の鳥獣

12月23日(水)から開催

江東区芭蕉記念館(常盤1-6-3)では、12月23日(水)から2階展示室を一部展示替えします。前回の「描かれた文人像」に代わって、今回は「書の中の鳥獣」を企画しました。

なお「芭蕉の書」「江戸の歳事」などはそのまま展示を行っています。併せてご覧ください。

それでは展示品の一部をご紹介します。

「森狙仙筆 猿猴図」

肥前長崎生まれの森狙仙は、円山応挙の写生主義の影響を受け、写生画風の一家を成しました。この資料は親子の2匹の猿を描き、親猿は手に蜂をのせています。生来猿を好み、獣類の毛猫に独特の画法を持つ狙仙の筆使いをご覧ください。

「傲光琳筆意 鶯蒲筆 立鶴二羽図」

江戸生まれの鶯蒲は、酒井抱一に画を学び、作風は師風に似、繊細な感覚と鋭敏な情感にあふれています。この資料は、尾形光琳の筆使いに倣って、三羽の鶴を描いています。

他に、「海徳筆 芭蕉と雲雀図」「等與画 季吟賛 鶯図」「林斎筆 俳諧三対幅」「歌川豊春筆 七福神の図」「立圃筆 鶴図賛」「芳林画 蕪村賛



海徳筆芭蕉坐像図と雲雀図

双馬図」「石舂画 拾穂賛 芭蕉涅槃図屏風」等を展示いたします。書の中にどのように、鳥獣が描かれているか、ご覧ください。



森狙仙筆 猿猴図(部分)

芭蕉記念館

開館…午前9時30分～午後5時
休館日…月曜日(芭蕉史跡展望庭園は第2・第4月曜のみ)

展示替えのため12月22日(火)は休みます。

12月28日(月)～1月4日(月)の年末年始

入館料…大人100円、小中学生50円
交通…都営地下鉄新宿線森下駅下車徒歩7分
問合せ…芭蕉記念館

江東区常盤1-6-3
☎3631-1448

江東区ゆかりの人物(10)

土生玄碩



江戸中期～後期にかけて木場5丁目に住んだ眼科医。わが国最初の白内障手術に成功した名医である。

明和5(一七六八)年、現在の広島県高田郡吉田町に生れる。親代々の眼科医だが態度不遜、不作法、「ホラ吹き眼医者」と陰口をたたかれていた。

ある日、馬の目の膿を治療している馬医者を見かけて一念発起。京、大坂で修業。名声を挙げて、將軍家侍医として江戸へ。

幕末、シーボルトが江戸参府の時、シーボルトから開瞳薬を聞き出すために將軍家拝領の葵紋服を与えた。このことが発覚し、財産没収、投獄。のち、將軍家斉のお声がかかりで許され、深川木場で後輩の指導。嘉永7年89才で没。築地本願寺に葬。

戦前、映画「男の花道」で長谷川一夫扮する役者中村歌右エ門の眼を、古川ロッパ扮する玄碩が手術に成功する内容。大当たりであった。

(辻 康信)